

ペルゴ LVT フロア 施工マニュアル

お施主様控

LVT-2.0 (2021.2.28 改訂)



施工者様へ

ペルゴ LVT フロアは室内の温度環境によって異なった工法で施工する商品ですので必ず本書をお読み下さい。

禁止事項

製品の性能低下や不具合が発生する恐れがあります。

※室内の温度環境によって、**接着工法**・**置き敷き工法**を選んでいずれかで施工して下さい。

※それぞれの工法によって禁止事項が異なります。

免責事項

本書の記載内容を遵守しなかったことで生じた損害（不具合、逸失利益等）及び、これにより生じた二次的な損害は、当社として一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

配送業者様へのお願い

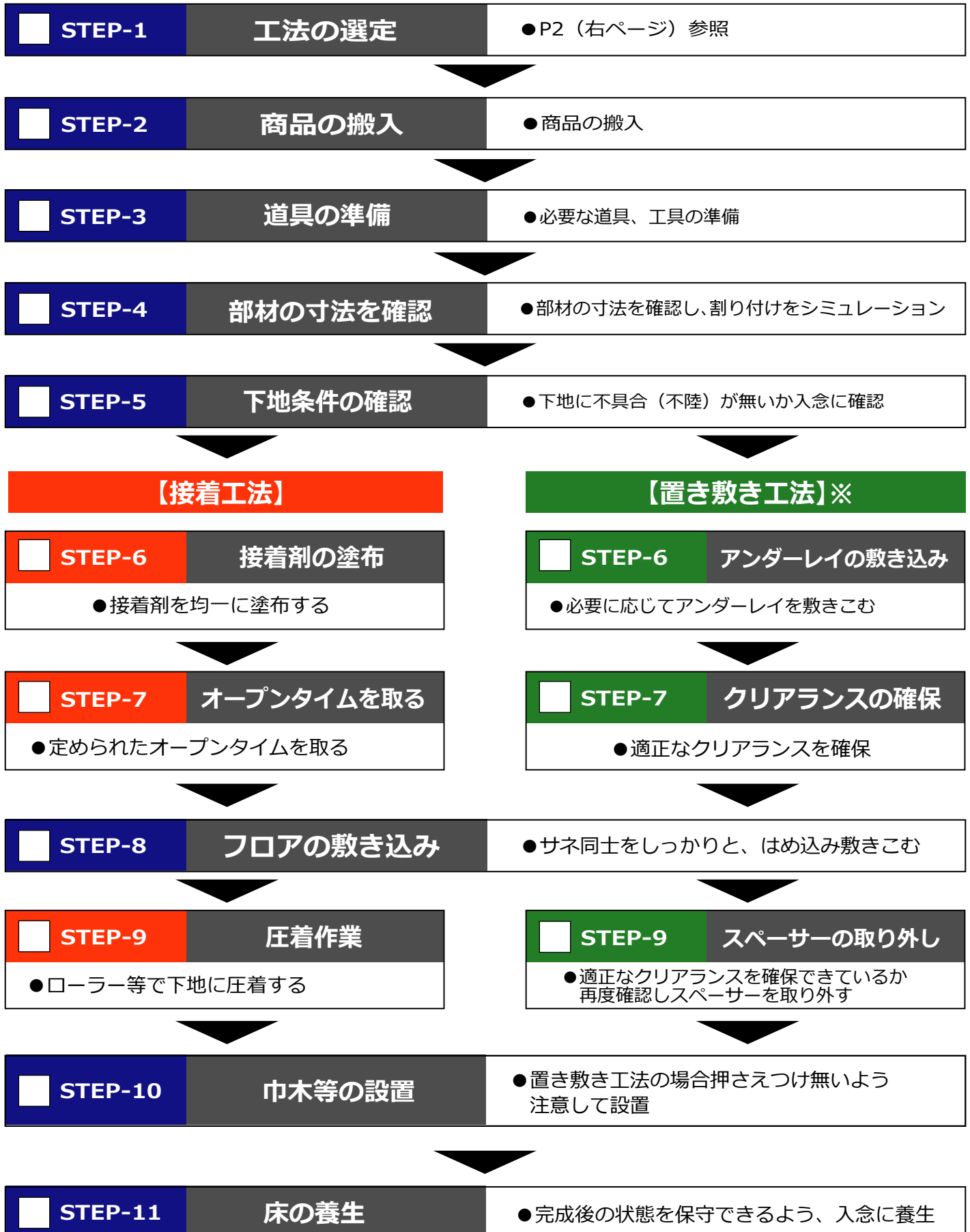
必ず本書を施工者様へお渡し下さい

※角が傷つきやすいため搬入中の荷扱いには十分注意してください。

平置き必須、立てかけ NG

※製品はたわみやすくてたわませて持つと梱包が破損する恐れがあります。

施工チャート



※置き敷き工法とは、フロアを下地にクギやノリなどで固定をしない工法を言います。

【ペルゴ LVT フロア】 施工マニュアル お施主様用取扱説明書



この度は(株)北洲ペルゴ LVT フロアをご購入いただき、誠にありがとうございます。
ペルゴ LVT フロアは室内環境に応じて施工方法を選定して施工します。
下記の表より最適な施工方法をお選びください。

STEP-1 **工法の選定** ●室内環境に応じた工法を選定する

| 環境 | 工法 | 接着工法 | 置き敷き工法 |
|-------------------------|-------|------|--------|
| 室温 (施工前・施工中・施工後) | | | |
| 18℃未満 | 35℃以上 | ○ | × |
| 18℃以上 | 35℃未満 | ○ | ○ |
| 暖房器具のご利用 | | | |
| エアコン | | ○ | ○ |
| 床暖房 | | ○ ※1 | ○ ※1 |
| こたつ・ファンヒーター | | ○ | × |
| ホットカーペット | | ○ | × |
| 暖炉 | | ○ | × |
| 重量物 | | | |
| 重量物の設置 | | ○ ※2 | △ ※3 |
| 固定 | | | |
| ビス固定建具枠など | | ○ | × ※4 |
| 下地条件 | | | |
| 合板フロア・長尺シート | | ○ | ○ ※5 |
| 遮音フロア | | ○ | ○ |
| スラブ | | ○ | ○ |
| CF・畳・カーペット | | × | × |

※1：熱源の上に必ず捨て張り合板t12mm以上をご使用して下さい。既存フロアの下に熱源がある場合は捨て張りは不要です。

★表面温度 27℃を超える場合は接着施工して下さい。

※2：荷重制限なし。但し、点荷重がかかり過ぎると、床本体がへこむ可能性があります。

※3：目安 200 kg/m²未満の重量物は設置可能です。重量物手前で見切材により縁を切れば設置可能です。

※4：但し、ビスで固定する際はルーズホールを開けて下地に固定して頂ければ施工可能です。

押さえつけすぎると不具合の原因になります。

※5：下地の不陸条件はP5をご確認下さい。

STEP-2

商品の搬入

●商品の搬入



※商品は立てかけずに平置きしてください。



※商品を運ぶ際は、長手の木口を抱えるようにしてください。商品をたわませて運ぶと梱包が破れてしまうことがあります。

※当製品は、角が傷つきやすいため

搬入中・施工中の荷扱いは十分注意してください。

※傷ついたまま施工すると目違い、欠けの原因となりますので取り除いて施工してください。

※現場・倉庫での保管はパレット・台木の上に載せ、地面には直接置かないでください。また、シート等できちんと養生してください。下地に直接置く場合は下地が濡れていないか確認して下さい。濡れている場合は直接置かないでください。

※商品は 48 時間前に現場に納入し、施工に最適な温度環境 (18 ~ 22℃) に馴染ませからご使用ください。

※開封時に重要な損傷が認められる場合は、商品到着後 24 時間以内に購入先に連絡しその材を使用しないでください。

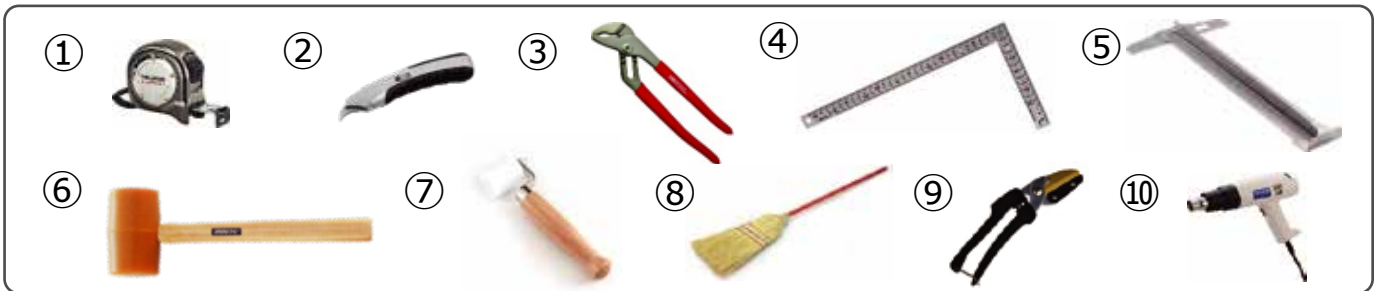
STEP-3

道具の準備

●必要な道具、工具の準備



▼工具等



- ①スケール
- ②専用カッター (別売) (ネジロック式の市販品でも可)
- ③プライヤー
- ④差し金
- ⑤専用 T 型定規
- ⑥フローリングハンマー
- ⑦ジュラコンローラー (接着施工時)
- ⑧ほうき
- ⑨剪定ハサミ
- ⑩ヒートガン・ドライヤー等

STEP-4

部材の寸法を確認

●部材の寸法を確認し、割り付けをシミュレーション



▼フロア本体



(幅) 187mm (厚) 4.5mm
(長さ) 1,251mm
■重量 (1ケース) : 16.8 kg
■面積 (1ケース) : 2.105 m²



(幅) 320mm (厚) 4.5mm
(長さ) 1,300mm
■重量 (1ケース) : 16.71 kg
■面積 (1ケース) : 2.08 m²

▼アンダーレイ



1m×1.15mm×15m
(幅) (厚) (長)

※通常は使用いたしません。

タイル下地等の下地に不陸が気になる場合にご使用ください。但し、「1 M に対し 2 mm 以下」かつ「200 mm に対し 1 mm 以下」の凹凸まで対応可能です。

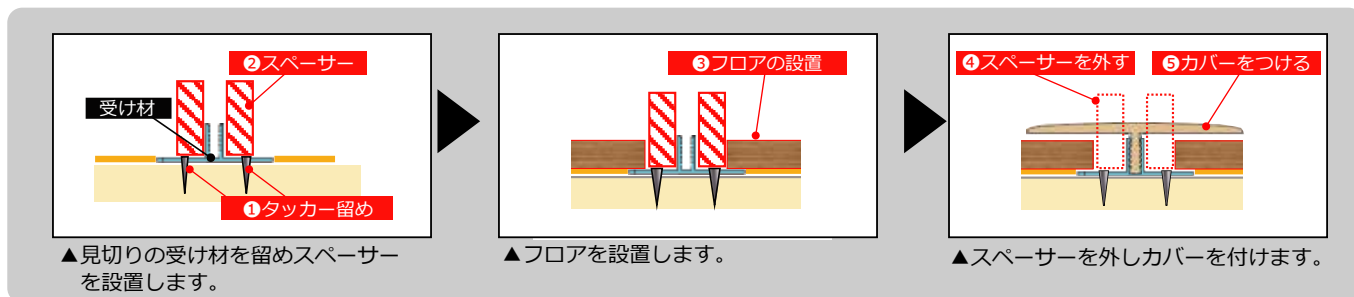
それ以上の凹凸がある場合は、下地の補修を行って下さい。

【注意事項】

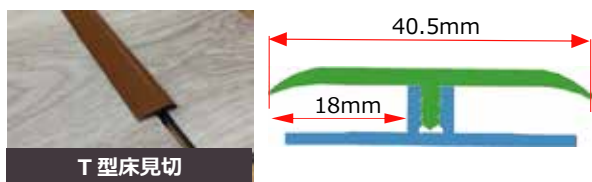
室温の変化が大きい場合フロアの伸縮によりアンダーレイがよれ、不陸の原因となる場合があります。

T型床見切

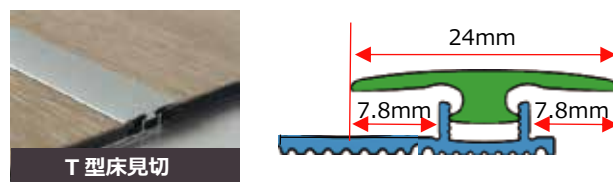
★建具の下などで見切りを使う際は【T型床見切】を使用します。



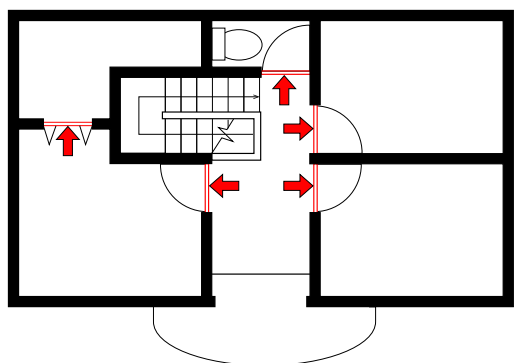
▼樹脂製見切



▼アルミ製見切



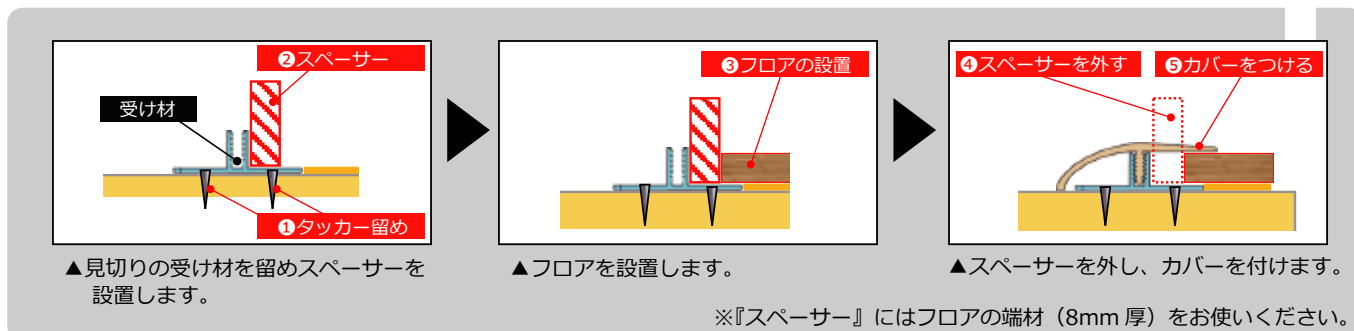
■使用例



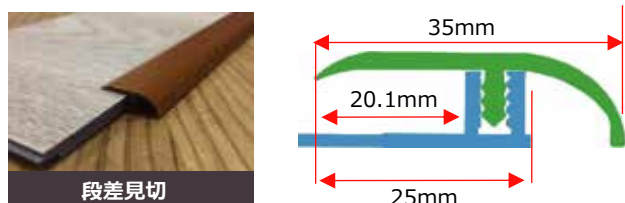
※最大ロングスパンの範囲内でもくびれた個所に見切材を設置することでサネ鳴りや目違い等の不具合を防げます。

段差見切

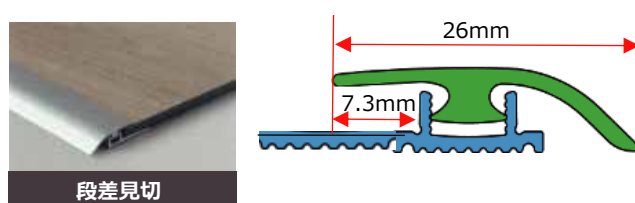
★リフォームなどで段差が生じる際は【段差見切】を使用します。



▼樹脂製見切

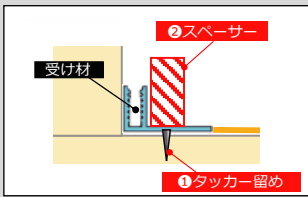


▼アルミ製見切

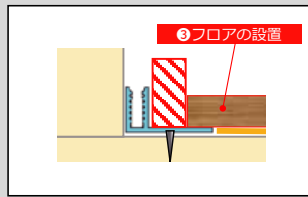


L 型床見切

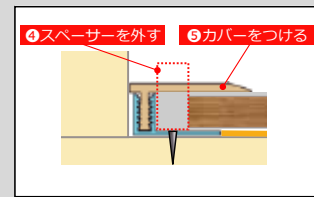
★突き付け部分や壁面にクリアランスを設ける際は【L 型床見切】を使用します。



▲見切りの受け材を留めスペーサーを設置します。

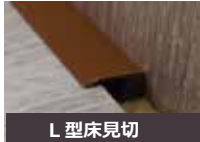


▲フロアを設置します。

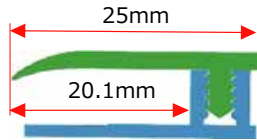


▲スペーサーを外し、カバーを付けます。

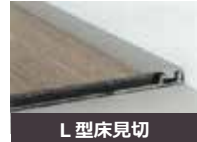
▼樹脂製見切



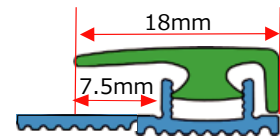
L 型床見切



▼アルミ製見切



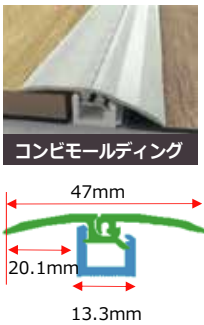
L 型床見切



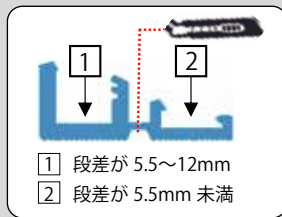
コンビモールドイング T 段差型

★異なる種類のフロア（【例】LVTフロアと合板フロアなど）の仕上げに使用します。

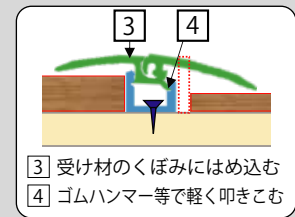
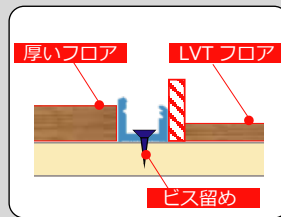
▼アルミ製見切



コンビモールドイング



- 1 段差が 5.5~12mm
- 2 段差が 5.5mm 未満

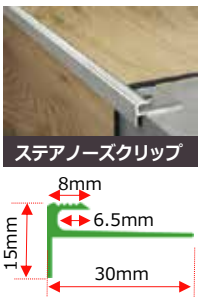


- 3 受け材のくぼみにはめ込む
- 4 ゴムハンマー等で軽く叩きこむ

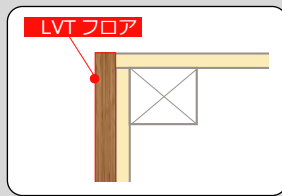
ステアノーズクリップ 段鼻

★階段の段鼻部分には、ステアノーズクリップ段鼻を使用します。

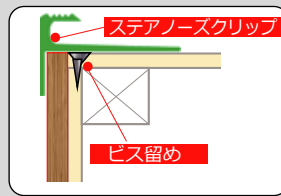
▼アルミ製見切



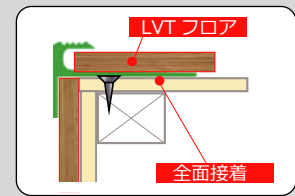
ステアノーズクリップ



▲蹴込にLVTフロアを取り付けます。



▲ステアノーズクリップをビスで固定します。



▲LVTフロアを段板側に取り付けます。（※全面接着）

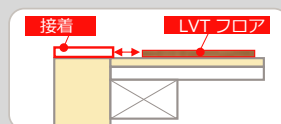
リフォーム框

★玄関には市販のリフォーム框を推奨いたします。（※薄めの商品を推奨）

▼リフォーム框
（市販品）



▲角にスペーサーを取り付けます。



▲クリアランスを確保し、LVTフロアを設置します。



▲クリアランスを確保し、LVTフロアを設置します。

STEP-5

下地条件の確認

●下地に不具合（不陸）が無いか入念に確認

1

下地の厚みは **12mm以上**ありますか？

※スラブ以外の下地には必ず 12mm 以上の合板を施工してください。根太の上に直接フロアは施工できません。

2

下地が**乾燥**していますか？

※未乾燥の下地に施工すると、フロアにカビや反りが発生する恐れがあります。

3

下地に**不陸**は無いですか？

※ 1 mに対して 2 mm以下、200 mmに対して 1 mm以下の不陸であれば問題ありません。

畳の上やカーペットの上の施工は避けてください。ただし、一部の商品に限り毛足の短いカーペットやスタイロタタミなどの上から施工できます。特殊な環境下で施工される場合は、ご使用用途をメーカーにお問い合わせください。

4

下地から**釘頭**は出ていませんか？

※釘頭等が突出していないか確認し、是正した上で施工してください。

5

下地の**掃除**は終わりましたか？

全て問題が無ければ次頁へ

STEP-4

接着剤の塗布

●接着剤を均一に塗布する



下地、用途に合わせた接着剤を選定してください。

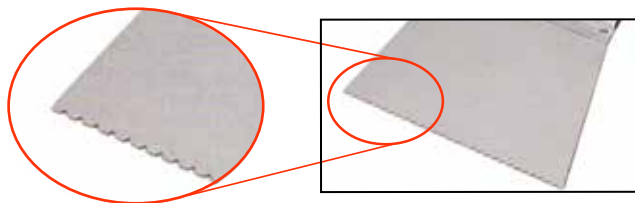
| 推奨接着剤 下地・用途 | トヨーポリマー（株）製 | （株）オーシカ製 |
|--------------------|---|--|
| 合板下地 スラブ その他 |  <p>『ルピロン エコプラス』 ●成分：アクリル樹脂系 エマルジョン形 ●オープンタイム 夏：15分/冬：25分 ●張り合わせ可能時間 夏：40分/冬：60分 ●標準塗付量：350g/m²</p> <p>●荷姿 内容量5kg/内容量15kg</p> |  <p>『セレクトィ UR-145』 ●成分：ウレタン樹脂系 ●オープンタイム 夏：なし/冬：なし ●接着可能時間 夏：30分以内 冬：40分以内 ●標準塗付量：600g/m²</p> <p>●荷姿 内容量15kg x 1缶 内容量10kg x 2缶 内容量 5kg x 4パック</p> |
| 水廻り |  <p>『ルピロン マイスター』 ●成分：ウレタン樹脂系 ●オープンタイム 夏：15分/冬：25分 ●張り合わせ可能時間 夏：20分/冬：25分 ●標準塗付量：350g/m²</p> <p>●荷姿 内容量5kg/内容量16kg</p> | |
| 床暖房 | | |

接着剤の施工手順

1. 下地の凹凸や段差は補修し、下地表面のごみや、ほこり、油汚れは取り除いてください。
水分は十分に乾燥させて下さい。

2. 目の細かいクシ目ゴテを使用し、
均一に全面に塗布して下さい。 **STEP-6**
(写真1参照)

写真1



※接着剤を塗りすぎると、短辺の目地から
接着剤がはみ出る可能性があります。
(写真2参照)

写真2



※均一に全面に塗布しないと突き上げや
そり、あばれの原因になります。
(写真3参照)

写真3



3. 塗布後、指定されたオープンタイムを取って下さい。 **STEP-7**
※(株)オーシカ製 セレクトィ UR-145 を使用して接着する場合、オープンタイムは不要です。

4. 床材を敷きこむ。

※壁際などにはクリアランス（1 ミリ程度）を設けて下さい。 **STEP-8**

※フロアの加工方法、はめ込み方法はP13をご確認下さい。

※はめ込む際にサネに接着剤が付くと、表面に接着剤がはみ出ることがあります。ご注意ください。

5. 床材を張り付け後ローラー等で十分に圧着して下さい。必要に応じて再度圧着をして下さい。 **STEP-9**

※接着剤の施工方法や注意事項の詳細は各接着剤メーカーにご確認下さい。

置き敷き工法

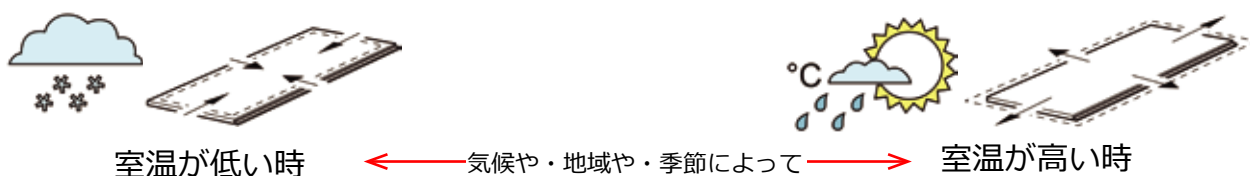
置き敷き工法とは、ノリやクギなどで下地に固定しない工法を言います。

ペルゴLVTフロアは、室温の変化に伴い膨張、伸縮するフロアです。置き敷き工法で設置する場合、置き敷き工法の利点（※1）を得るため、また不具合を防ぐため以下の注意事項をご確認下さい。注意事項を守って施工しないと、製品の性能低下や不具合が発生する恐れがあります。

※1 置き敷き工法の利点：下地に固定しない工法の為、下地を傷めず張り替えが可能となります。

フローティング工法の床は面全体で「伸縮」します

ペルゴLVTフロアは温度変化により伸縮を繰り返します。



本取扱説明書には製品を長く、安心してご使用いただくために重要な内容を記載しています。製品ご使用前に内容をお読みいただき、注意事項を遵守していただきますようお願い申し上げます。また、本取扱説明書は製品の施工、ご使用の上で重要な書類ですので、大切に保管してください。

| 【室温】 | 【工法】 |
|--|----------------------|
| <p>18℃以上 35℃未満 室温 = 施工前・施工中・施工後 ※施工後 = 使用開始後も含まれます。</p> | <p>置き敷き工法</p> |
| <p>18℃未満・35℃以上</p> | <p>全面接着</p> |

- 置き敷きで施工する際は、室温を18℃～35℃未満に設定してください。接着剤を使わずに施工が可能です。
(※全面接着でも可)
- ペルゴLVTフロアの表面温度が室温になじんでから貼り始めてください。



STEP-6

アンダーレイの敷き込み

●必要に応じてアンダーレイを敷きこむ



アンダーレイ

▼アンダーレイ



1m×1.15mm×15m
(幅) (厚) (長)

※通常は使用いたしません。

タイル下地等の下地に不陸が気になる場合にご使用ください。

但し、「1Mに対し2mm以下」かつ「200mmに対し1mm以下」の凹凸まで対応可能です。それ以上の凹凸がある場合は下地の補修を行って下さい。

【注意事項】

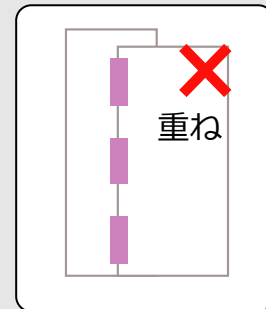
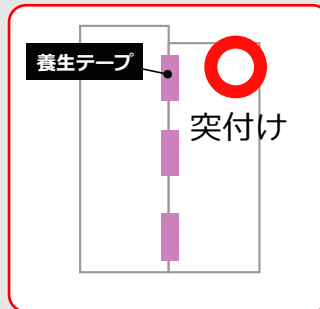
室温の変化が大きい場合フロアの伸縮により

アンダーレイがよれ、不陸の原因となる場合があります。

【施工方法】

▼アンダーレイはペルゴ [PERGO] のロゴを上にして下地に広げます。

フロアの設置方向と、平行に設置します。アンダーレイ同士は必ず『突き付け』にし、ジョイント部分は養生テープで留めてください。重ねて設置することはNGです。



STEP-7

クリアランスの確保

●適正なクリアランスを確保する



【置き敷き工法におけるクリアランスについて】

- ◆本製品は樹脂系のフロアである為、加工した後も室内温度環境に応じ、伸縮が発生いたします。
- ◆その為、**すべての方向に『クリアランス』(調整幅)、4.5mm以上が必要です。**
適切にクリアランスを確保しない場合、フロアの浮き、突き上げ、床鳴りといった不具合の原因になります。
- ◆**コーキングによるクリアランス確保は、以下5点により不可といたします。**
 - ・コーキング自体の硬化により、適正なクリアランスが確保出来ない。
 - ・伸縮した際に、コーキング自体が盛り上がり、つまづきの原因となったり、コーキング切れの原因となる。
 - ・コーキングの油分により、汚れの付着やシミの要因となる。
 - ・見切は、下地に固定した見切ベースとフロアを挟んで固定するので、フロア端部を上から抑えることが出来ますがコーキングはその上からの固定が出来ずに浮きの原因になる。
 - ・経年変化による硬化や汚れ、コーキング切れ、ひび割れ等の発生により、定期的なメンテナンスを要する。
- ◆クリアランス確保の際に仮釘などを使用した場合は、施工後に必ず取り外してください。
- ◆配管の周囲は配管形状に合わせたクリアランスを確保してください。

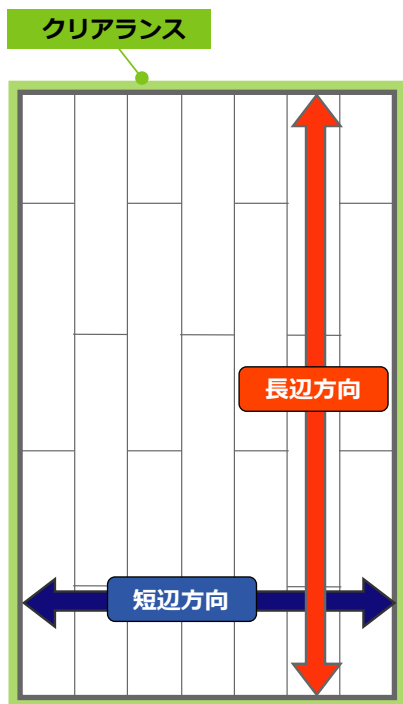
【置き敷き工法におけるフロアの固定について】

- ◆本製品は樹脂系のフロアである為、加工した後も室内の温湿度環境に応じ、伸縮が発生いたします。
 - ◆フロアに直接ビスや釘を打つとフロアの伸縮を妨げ、フロアの浮き、突き上げ、床鳴り、目隙と言った不具合の原因になります。
 - ◆ビスで器具などを固定する場合は施工前にビス径より2～3mm大きな下穴を空けてからビスで固定して下さい。
この時にフロアの伸縮が妨げられるほど固定し過ぎないようにして下さい。
- ※**間仕切り壁や、造作家具等の重量物**を同様の方法で施工すると伸縮を妨げ、不具合の発生原因となる場合があります。

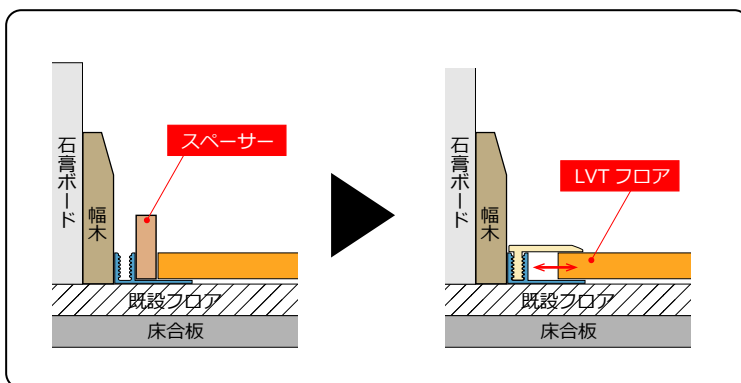
【重要】専用見切材や木幅木を使用する場合のクリアランス基準

※置き敷きの場合、『突きつけ施工』は禁止です。

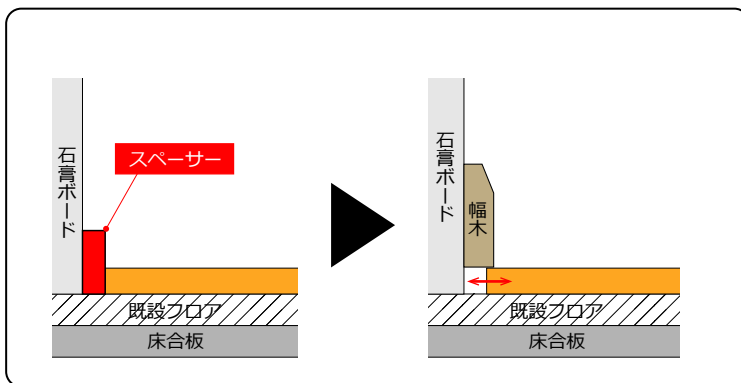
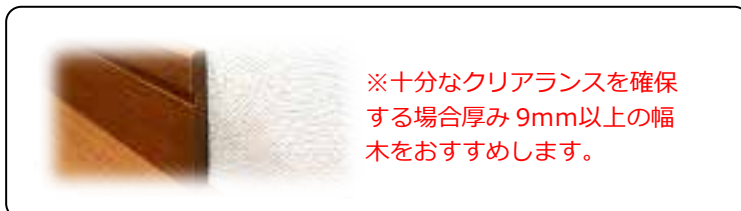
伸縮を飲み込む為の『クリアランス（隙間）』4.5mm以上を設けてください。



▼見切材を使用する場合



▼幅木を使用した場合



▼スペーサーの設置間隔は400mm～500mmです。



※スペーサーにはフロアの端材をお使い頂けます。
1枚=4.5mm



最大ロングスパンについて

最大ロングスパンは
長辺方向12m、短辺方向5mまでです。
最大ロングスパンを超える施工面積や
建具の設置でくびれる部分には、T型見切を
ご使用ください。

12m × **5m**
長辺方向 × 短辺方向

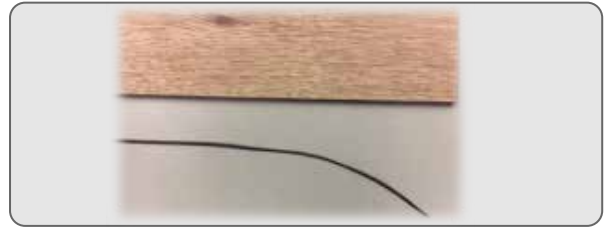
STEP-8

フロアの敷き込み

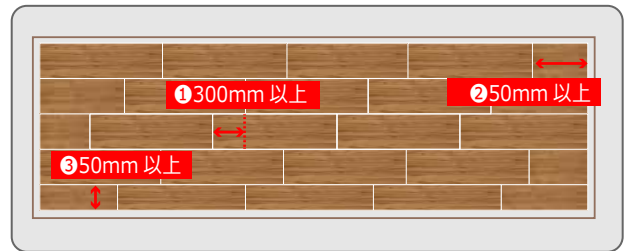
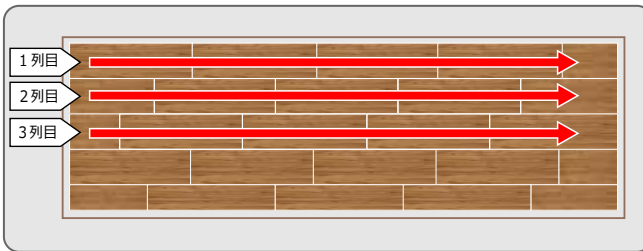
●サネ同士をしっかりと、はめ込み敷きこむ



部屋貼り始めの列は、雄サネをカットします。



部屋の左端から貼り始めてください。(※逆貼りも可能です。)



フロアの切断は以下の要領で行います。



カッターで2～3回
切り込みを入れます



切り込みと反対側へ
折り曲げます



切り込み側へ
折ると切断できます。



ヒント!

細い部分は、プライヤー
で掴んで折り曲げると
簡単です。

必要工具@ヒートガン・ドライヤー等で予め温めると、加工しやすいです。

フロアの設置は以下の要領で行います。



長辺のサネからはめ込み、
スライドさせます。



短辺同士を密着させます。



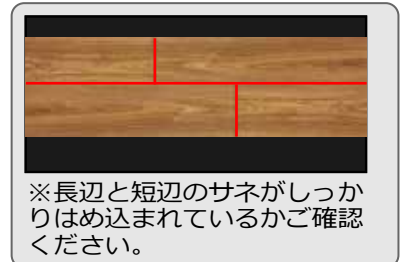
一旦落とし込みます。



上の写真のように、端部を軽く
持ち上げながらサネの端をはめ
込みます。



指でなぞるように、サネを
はめ込んで完了です。

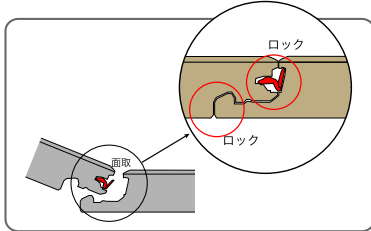


※長辺と短辺のサネがしっか
りはめ込まれているかご確認
ください。

加工や、短辺樹脂サネの外れなど不具合が無いかをチェックしながら施工してください。

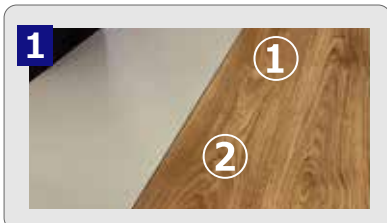


サネを同じ向きで挿入しなおす。

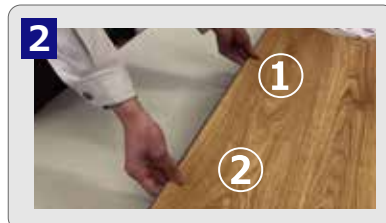


Check ! 短辺方向のサネの片側には、目隙を防ぐため樹脂サネが取り付けられています。間配りや、加工中に外れてしまう可能性がありますので、ご注意ください。
 長手方向へフロアをカットする際は、予めカッターで樹脂サネに切り込みを入れてからフロア表面に切り込みを入れ、フロア本体を折り曲げて下さい。

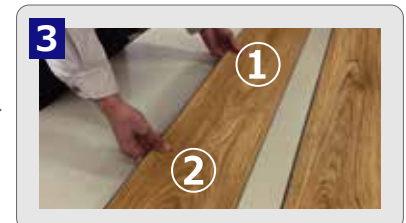
1度貼ったフロアの取り外しは、以下の要領で行ってください。



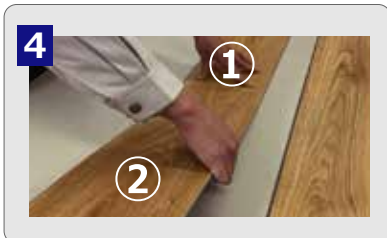
②のフロアを1枚だけ外す場合



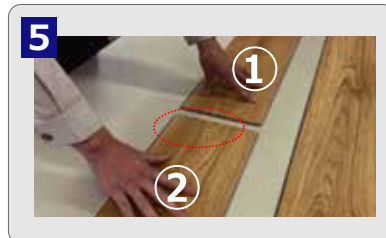
列全体を持ち上げます。



一旦引き寄せて



プラスチックが付いていない側のフロアを持ち上げる



フロアを取り外します。

※無理やり1枚だけ外しますとサネの破損の原因になります。

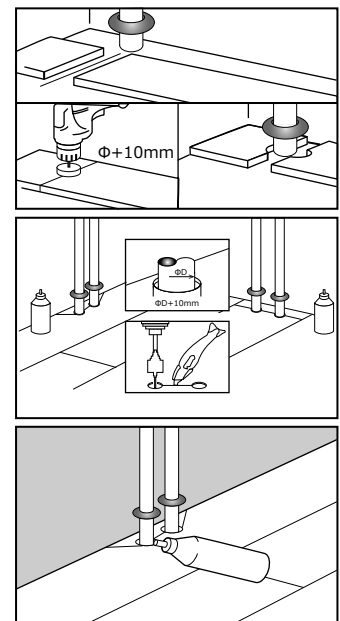
配管周りの処理は以下の要領で施工します。

置き敷き

2枚のパネルの短手部分にパイプが来るようにしてください。
 2枚のパネルの短手をクリックして繋ぎ、ドリルを使って接合部を中心に穴をあけ、パネルを設置します。穴はパイプの直径に10mm加えた寸法にしてください。

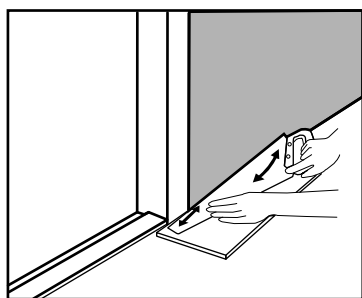
パイプが2本ある場合は、パイプの直径に10mm加えた寸法でそれぞれの穴をあけます。パネルの長手側にパイプがある場合は、各穴から長手側の端まで45°の切り込みを入れます。

適切な接着剤を使用し、切り出した部分を取り付けます。置き敷き施工の場合は下地にはみ出さないよう気を付けてください。

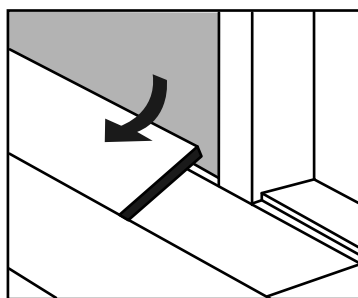


建具枠や柱が先付けされている場合は以下の要領で施工してください。

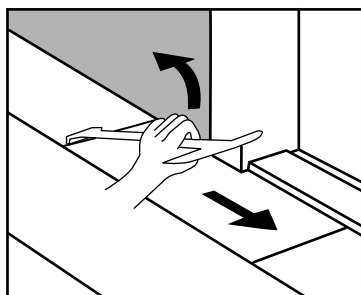
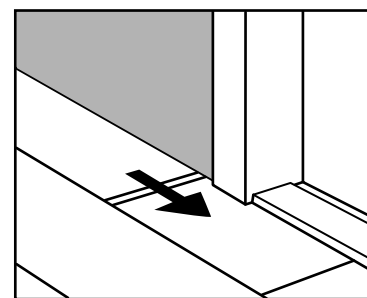
置き敷き



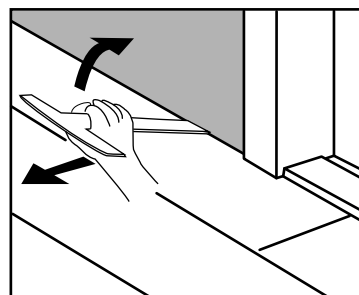
建具枠等を手鋸でカットしま



カット下枠下にフロアの長辺側を入れ、短辺サネ方向に引き寄せます。



専用定規の持ち手を利用し
ジョイント部を引き寄せます。



専用定規の持ち手を利用し
ジョイント部を引き寄せます。

ヒント! ヒートガン・ドライヤー等で予め温めると、施工しやすいです。

建具枠や柱が先付けされている場合は以下の要領で施工してください。

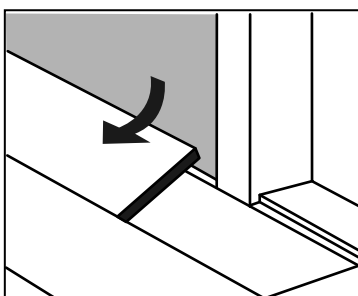
接着



フロアを加工する場合は、剪定ばさみなどで実際のカットラインより少し内側を切り、カッターで微調整しながら加工してください。

最終列（壁際）のフロアは、斜めにカットします。

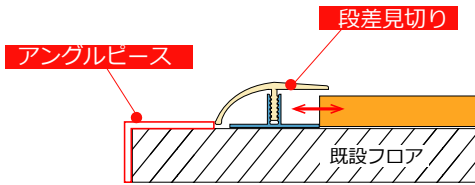
共通



最終列は斜めにカットすると、壁に当たらず、納めやすくなります。

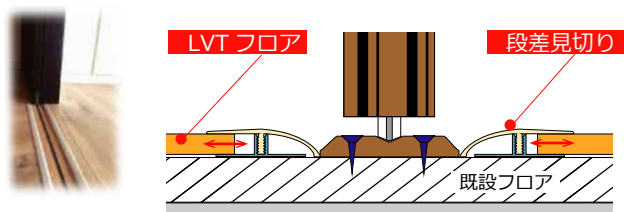
特殊な納まり例

掃き出しサッシ



※アングルピースの前に『段差見切』を取り付けます。

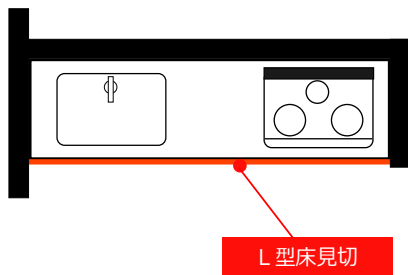
引き戸レール付近の納まり



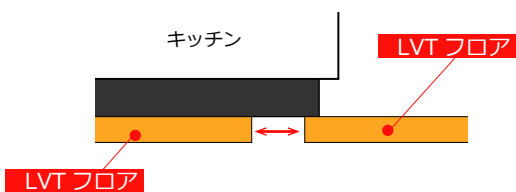
※レールの両側に『段差見切』を使用

キッチン周りの納まり

■あらかじめキッチンがある場合

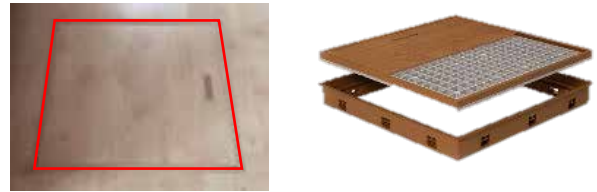


■まだキッチンが無い場合

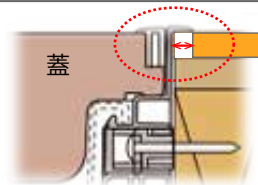


あらかじめLVTフロアを施工し、「下駄」を履かせることで、キッチン下にクリアランスを確保します。

床下収納庫



■点検口の蓋は、既存のフロアを剥がし、『4mmベニヤ + 4mmベニヤ + LVTフロア』『2.5mmベニヤ + LVTフロア + LVTフロア』など、厚みを合わせて施工してください。



枠とフロアの間には2mm程度のクリアランスを作ってください。

(※) 蓋に取り付けるフローリング、ベニヤは接着してください
(※) 点検口の「受け」は、一旦外し、LVT施工後の高さに合わせてください

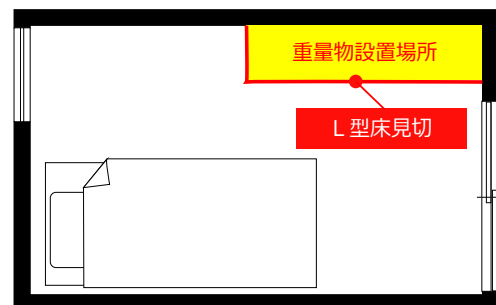
トイレの床で使用する場合



※床との取り合いに生じる隙間は必ずコーキング（耐水）で処理してください

重量物の設置予定がある場合

※ピアノ、書棚など（※荷重 200kg 以上）



※重量物の設置区画のみ、縁を切ることで対応してください。

STEP-9

スペーサーの取り外し

- 適正なクリアランスを確保できているか再度確認しスペーサーを取り外す



【置き敷き工法におけるクリアランスについて】

◆すべての方向に『クリアランス』（調整幅）、4.5mm以上が必要です。適切にクリアランスを確保しない場合、フロアの浮き、突き上げ、床鳴りといった不具合の原因になります。

ドア枠・巾木を設置する場合

ドア枠や巾木でフロアを押さえつけることは厳禁です。

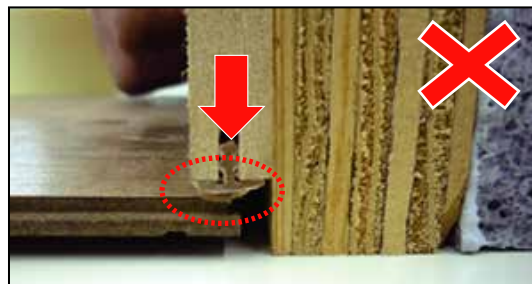
STEP-10

ドア枠、巾木の取り付け

- 置き敷き工法の場合押さえつけ無いよう注意し設置



置き敷き工法の際の注意事項



ドア枠や巾木でフロアを押さえつけることは**厳禁**です。（※伸縮の妨げになります。）

【重量物の設置について】

- ◆重量物がある場合には、重量物の際（きわ）にL型見切を設ける、『縁切り』を行いクリアランスを確保して下さい。
重量物の目安 = m²当たり 200 kgまで設置可能です。

STEP-11

床の養生

- 置き敷き工法の場合押さえつけ無いよう注意し設置

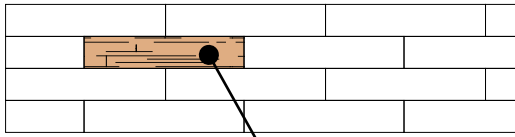


ペルゴフロアは極めて優れた耐久性を持つ製品ですが、「傷」や「へこみ」を完全に防げるわけではございません。施工後のトラブルを防止する為に、**養生は確実に行ってください。**

施工完了

メンテナンス・補修ガイド

フロアが浮いてしまった



Check

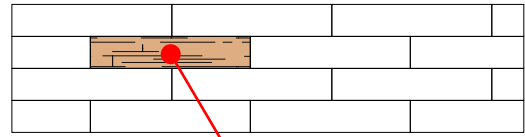
接着工法

- ①クリアランスは不足していませんか？
 - ②接着剤でしっかりと固定されていますか？
- 「浮き」はフロアが下地にしっかりと接着されておらず、伸縮したことで発生するケースが非常に多い為、上記2点の再確認をお願い致します。

置き敷き工法

- ①クリアランスは不足していませんか？
 - ②ノリやクギで留めつけていませんか？
- 「浮き」はフロアの伸縮が阻害されたことで発生するケースが非常に多い為、上記2点の再確認をお願い致します。

部分的に欠けてしまった



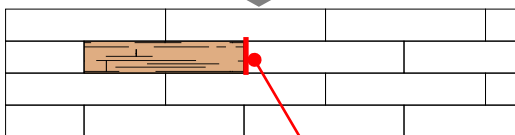
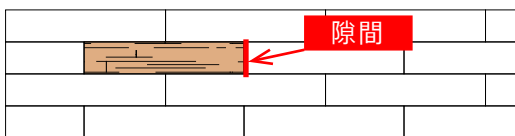
Repair



- ・ホットナイフ
- ・ハードワックス

一般的なフロアと同様、市販のリペアキットで補修できます。困難な場合にはリペア専門店にご相談ください。

隙間が空いてきてしまった



Repair



吸盤や両面テープを付けた端材を設置し、軽く踏みながらゴムハンマーで叩き、引き寄せます。

接着工法

隙間が生じたフロアを上記の方法で、引き寄せ引き寄せられれば、引き寄せ後にボンドを注入します。引き寄せられない場合は、フロアを張り替えるか、補修を行ってください。

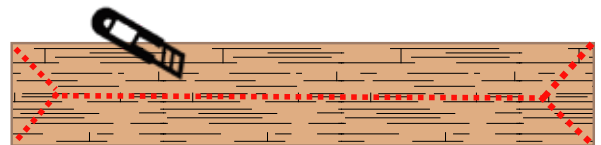
置き敷き工法

隙間が生じたフロアを上記の方法で、引き寄せます。短辺の樹脂サネにダメージなどがある場合、樹脂サネを交換してから、作業して下さい。目違いが生じた場合は、逆の手順で作業をしてください。

サネ部分から床鳴りがする

- ①下地が鳴っていませんか？
 - ②壁とフロアがこすれていませんか？
- ペルゴ LVT フロアは樹脂系フローリングですのでフロア同士がこすれるサネ鳴りや、床鳴りは生じません。そのため、床鳴りがする場合はフロア以外から音が発生している可能性が多い為、上記2点をご確認ください。

以上で直らなかった場合の部分張り替え



上記のように切り込みを入れ、ボールやスクレーパーを使用し、フロアを外します。下地の不陸を確認後、新しいフロアを張って下さい。

接着工法

既存のフロア、接着剤を取り除き、サネを落としたフロアを接着して下さい。

置き敷き工法

既存のフロアを取り除き、新しいフロアを張って下さい。



美装作業・注意事項

【清掃方法】

- ◆ホウキ、掃除機などでフロア表面のゴミを取り除いてください。
- ◆フロア表面以外の箇所（巾木、壁等）を養生してください。
- ◆中性洗剤をぬるま湯で希釈した洗剤液を作ります。
- ◆洗剤液を含ませたモップ、または雑巾を固くしぼり、フロア表面を拭いてください。
- ◆汚れが落ちない場合は、メラミンスポンジに少量の水を含ませ、擦り落としてください。

【注意事項】

- ◆多量に水を使用した水洗いや、スチームクリーナーは禁止です。
- ◆洗剤液用と、水拭き用のモップ・雑巾は別のものを使用してください。
- ◆洗剤液は完全に拭き取ってください。
- ◆フロア表面に洗剤液が残ると、白化の原因になります。
- ◆ワックスがけは禁止です。
ワックスを表面に塗布すると、油分が表面に残り、汚れが黒ずんで取れなくなる可能性があります。
- ◆つなぎ目やフロアの切断面から水分が浸透する場合があります。水濡れは下地の不具合や、フロア表面の汚れの原因となりますので、出来るだけ速やかに拭き取って下さい。

元請工事業者様へ注意事項

【フロア施工後の重量物、造作棚等の設置について】

- ◆置き敷き工法で重量物がある場合には、重量物の際（きわ）にL型床見切を設ける『縁切り』を行い、クリアランスを確保してください。
重量物の目安 = m²当り 200kg を超えるもの（接着工法の場合は、設置可能ですが、へこみにご注意ください）。
- ◆置き敷き工法でビスをフロアに固定することは、以下の事由を除いて禁止です。
外周部と同じ様に、ビス廻りにクリアランスが確保できる下穴をフロアに空けてから下地にビスを留める場合。ビスとフロアが接しない様に施工。この場合、ビスを締めつけてフロアの可動を妨げない様にビスを締める様にしてください。直接ビスでフロアを固定すると突き上げ、床鳴りの原因になります。

【引き渡し前の温熱環境について】

- ◆室内の温熱、湿度環境を適正に保ってください。
高温多湿な状態で、長期間換気を行わない場合や、室内の寒暖差が極端にある場合、フロアの突き上げや、目隙などの不具合が発生する場合があります。

元請工事業者様へ注意事項

【水濡れに関して】

- ◆置き敷き工法で施工した場合、床表面および、ジョイント部は 100%防水性能がありますが、周囲のクリアランスから水が侵入し、下地に不具合が出る可能性があります。
- ◆床表面に水をこぼした際は放置せず速やかに拭き取ってください。そのまま放置しますと、汚れや、シミの原因になります。
- ◆掃除などの際、床に水を撒かないでください。通常のお手入れは、固く絞った雑巾と掃除機で十分汚れが取れます。スチームクリーナーのご使用は禁止です。
- ◆トイレでご使用する場合、便器周りのフチ部分に尿石汚れが滞留し、においの原因になる恐れがあります。フチ部分はコーキング処理を行ってください。

【耐久性や耐汚性に関して】

- ◆ペルゴフロアは強い耐傷性がありますが、傷がつかないわけではありません。
- ◆フロア表面には強い耐汚性がありますが、全ての汚れが付着しないわけではありません。
- ◆ナイロンキャストを使用した場合に砂や小石や硬いゴミ等で傷がつく場合があります。
- ◆土足での使用の場合、入り口にドアマットを敷いてください。
- ◆こびりついた汚れには市販のメラミンスポンジをご使用ください。
- ◆ワックスや、スチームクリーナーの使用は禁止といたします。
- ◆万が一、外的な衝撃によりフロアに欠けや割れが生じた場合には、壁際から床をはずし、ダメージのあるフロアのみ交換するか、床専門の補修業者（リペア業者）様に、パテ埋め、もしくはタッチアップ等にて補修していただくことを推奨いたします。
- ◆当製品は一般的な市販の洗剤に対する耐薬品性を持っておりますが、酸性の強い製品や塩素系の商品においては、長期間放置するとフロア表面に影響が出るものもありますので、出来る限り速やかに拭き取って下さい。（塩素系のタイプも同様です。）
- ◆汚れの多い場所で使用の際は、表面の凹凸部に汚れが入り込み、完全に拭き取れない場合があります。

【色や意匠性に関して】

- ◆ペルゴフロアの表層部分製造ロットにより微妙な濃淡が発生する場合があります。
- ◆実際の製品はサンプルやカタログと若干色味が異なる場合があります。あらかじめご了承ください。
- ◆同じデザインでも、表面の色合いに少々バラつきがある場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ◆デザイン上、外光により色味や風合いに濃淡を感じることがあります。部屋を遮光した上で均一に照らし再度ご確認ください。

【施工完了時の確認事項】

- ◆置き敷き工法の場合、巾木や建具等がフロアを押し付けることで、クリアランスを阻害していないか、再度ご確認ください。
- ◆置き敷き工法の場合、クリアランス確保に使用したスペーサーが無いが、今一度ご確認ください。
- ◆サネ部分に隙間や、突き上げ、欠け、浮きといった不具合が発生していないか、今一度ご確認ください。
- ◆施工後には、上記をご確認の上、速やかに養生してください。
- ◆置き敷き工法の場合、当製品は樹脂系製品であるため気候・使用室内環境等の温度の変化により伸縮します。それによって生じた不具合は、季節等による温度変化で治まることが多い為、一旦は経過を観察してください。

PERGO®

施工に関する動画や、詳細な取扱説明書（禁則、免責事項）は以下のリンクからご覧いただけます。

■動画集

ペルゴラミネートフロア施工イメージ

<https://www.youtube.com/channel/UCVhpuGqHdOumaAPMBrJ3MeQ>



▶HOKUSHU

施工マニュアル・カタログ・取扱説明書のデータダウンロード

<https://www.hokushu.net/kenzai/product/1076/>



株式会社北洲 PERGO営業部

【東京営業所】〒140-0013 東京都品川区南大井 6 丁目 16-4 戸浪大森ビル 3 階
TEL.03-6404-6750 FAX.03-6404-6751

【大阪営業所】〒545-6031 大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋 1 丁目 1-43 あべのハルカス 31F
TEL. 06-6625-5140 FAX. 06-7635-8452

【札幌営業所】〒001-0030 北海道札幌市北区北 30 条西 7 丁目 2-27
TEL. 011-738-0114 FAX. 011-738-0740

【福岡営業所】〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南 5 丁目 8-32 ナール博多駅南 203
TEL. 092-433-8555 FAX. 092-433-8558